

くすり一口メモ

抗ヒスタミン作用を有する薬剤と痙攣

抗ヒスタミン作用を有する薬剤は、痙攣発作が誘発されることが報告されています。その作用機序は、脳内ヒスタミン神経系がヒスタミンH1受容体を介して痙攣の抑制系として作動しているため、抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤の抗ヒスタミン作用により抑制系のヒスタミン作用が阻害され、痙攣を誘発させると考えられています。特に小児では、GABA(γ-アミノ酪酸)による中枢神経の抑制系が発達していないため、痙攣の誘発の可能性が高く、抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤は、慎重に投与しなければなりません。抗ヒスタミン作用を有する薬剤の中で、添付文書に痙攣、振戦の副作用が記載されている薬品についてまとめてみました。

一般名	商品名	添付文書記載内容
ジフェンヒドラミン塩酸	レスタミン	小児への投与は中枢神経系の副作用(興奮、痙攣等)が起こる危険性が高いので投与しないことが望ましい。
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ボララミン	重大な副作用(頻度不明) 痙攣 副作用(5%以上又は頻度不明) 振戦 未熟児、新生児には投与しないこと
塩酸トリプロリジン	ベネン	未熟児、新生児には中枢神経系の副作用(興奮、痙攣等)が起こる危険性が高いので投与しないことが望ましい。
クレマスチンフマル酸塩	タベジール	慎重投与 てんかん等の痙攣既往患者 重大な副作用(頻度不明) 乳幼児へは慎重投与
ヒドロキシジンバモ酸塩	アタラックスP	慎重投与 てんかん等の痙攣既往患者 副作用(頻度不明) 痙攣 過量投与時に振戦、痙攣発現
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン	慎重投与 てんかん等の痙攣既往患者 重大な副作用(頻度不明) 痙攣
シプロヘプタジン塩酸塩	ベリアクチン	重大な副作用(頻度不明) 痙攣 過量投与時に痙攣
ベタメタゾン、 d-クロルフェニラミンマレイン酸塩配合剤	セレスタミン	重大な副作用(頻度不明) 痙攣
セチリジン塩酸	ジルテック	重大な副作用(0.1%未満) 痙攣
ロラタジン	クラリチン	重大な副作用(頻度不明) てんかんの既往のある患者で本剤投与後に発作があらわれたとの報告
オキサトミド	セルテクト	過量投与時に痙攣発現
プロメタジン塩酸塩	ヒベルナ	副作用(0.1~5%未満) 痙攣
オザグレル塩酸塩	ベガ	副作用(0.1%未満) 振戦
セラトログラスト	プロニカ	副作用(0.1%未満) 振戦
ブランドルカスト水和物	オノン	副作用(0.1~1.0未満) 痙攣
ザフィルルカスト	アコレート	副作用(0.1~5未満) 振戦
モンテルカストナトリウム	シングレア	副作用(頻度不明) 振戦、筋痙攣を含む筋痛
スプラタストシル酸塩	アイピーディ	副作用(0.1%未満) 痙攣、振戦
アリメマジン酒石酸塩	アリメジン	記載なし
ホモクロルシクリジン塩酸塩	ホモクロミン	記載なし
アゼラスチン塩酸	アゼブチン	記載なし
メキタジン	ゼスラン	記載なし
フェキソフェナジン塩酸	アレグラ	記載なし
エピナスチン塩酸塩	アレジオン	記載なし
エバスチン	エバステル	記載なし
ペボタスチンベシル酸塩	タリオン	記載なし
フマル酸エメダスチン	レミカット	記載なし
オロパタジン塩酸	アレロック	記載なし
ラマトロバン	バイナス	記載なし

参考文献) カッシング薬理学, 添付文書  
(鹿児島市医師会病院薬剤部主査 野間口 寛)